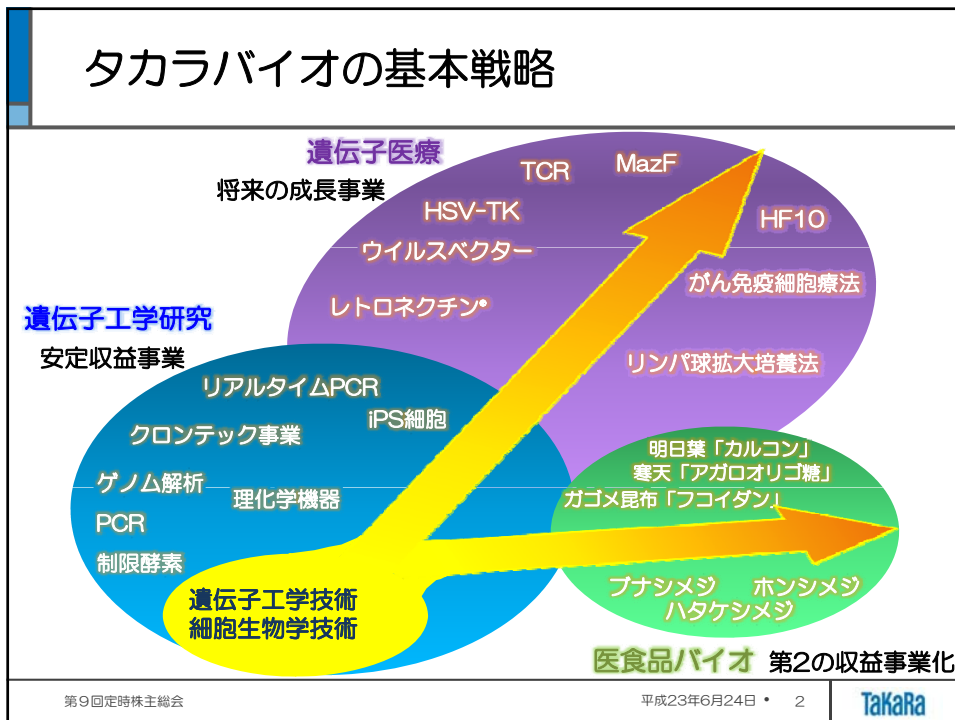
	<ul style="list-style-type: none"> ・第9期（平成23年3月期）業績 ・中期経営計画（平成26年3月期まで）



連結業績（平成23年3月期）

（単位：百万円）

	平成23年3期	前期比	
		増減	増減率
売上高	18,737	▲588	▲3.0%
売上原価	8,858	▲428	▲4.6%
売上総利益	9,878	▲160	▲1.6%
販売費及び一般管理費	8,781	▲704	▲7.4%
営業利益	1,097	+544	+98.4%
経常利益	1,276	+411	+47.6%
当期純利益	605	+14	+2.5%

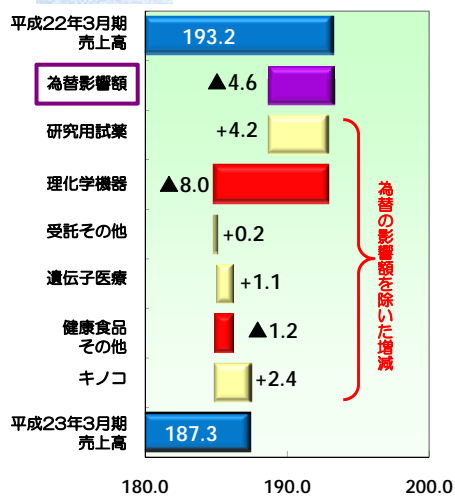
第9回定時株主総会

平成23年6月24日・3

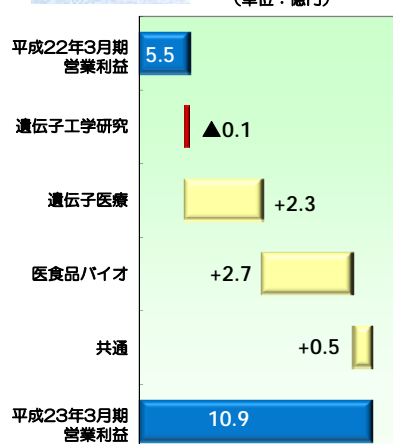
TaKaRa

売上高・営業利益（連結）＜前期比増減＞

連結売上高（単位：億円）



連結営業利益（単位：億円）

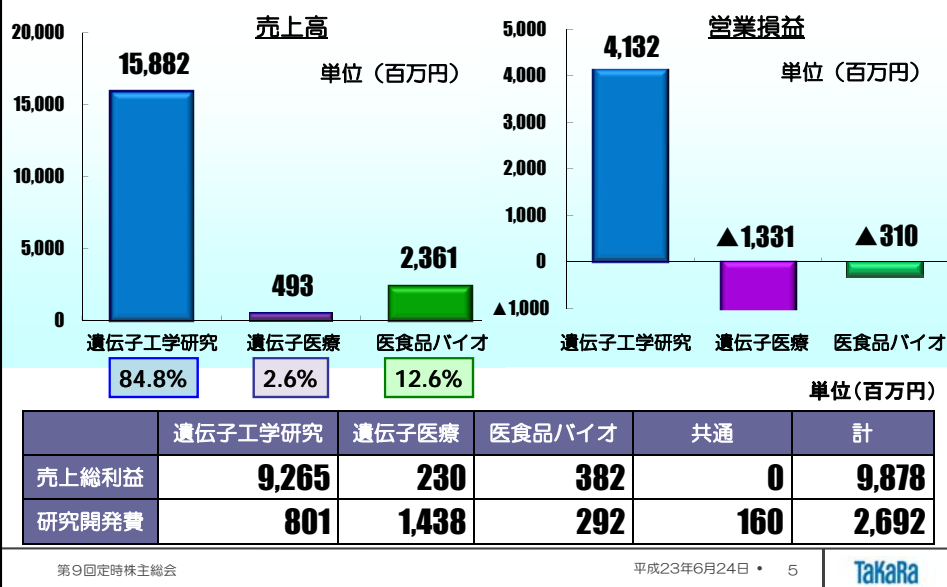


第9回定時株主総会

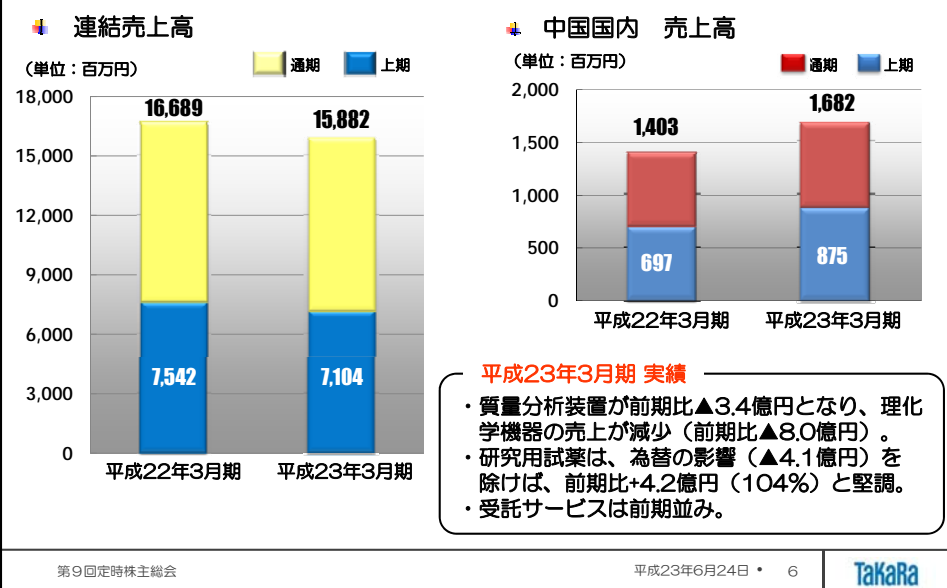
平成23年6月24日・4

TaKaRa

平成23年3月期セグメント情報（連結）

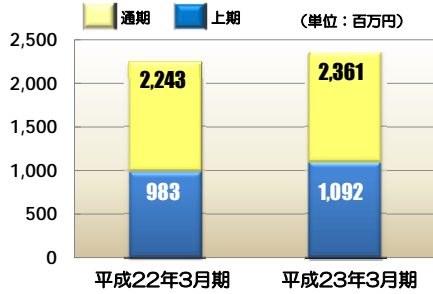


セグメント別売上高（連結） 遺伝子工学研究事業



セグメント別売上高（連結） 医食品バイオ事業

連結売上高



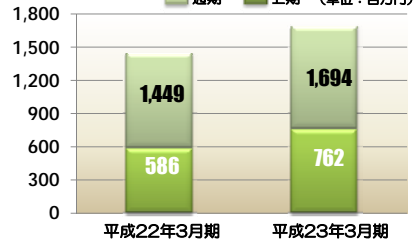
平成23年3月期 実績

- ・ 残留農薬検査事業の終了による健康食品事業の売上減（前期比▲1.2億円）
- ・ ハタケシメジ・ホンシメジの自社全量販売の開始によるキノコ事業の売上増（前期比+2.4億円）

健康食品その他

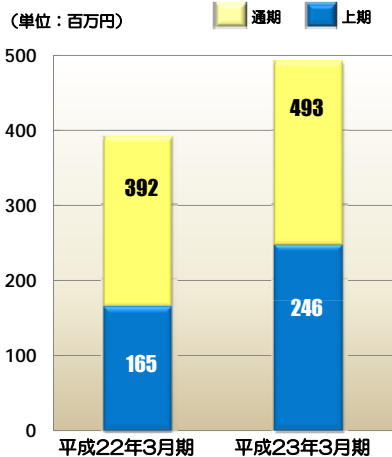


キノコ事業

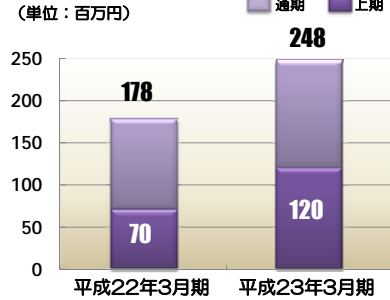


セグメント別売上高（連結） 遺伝子医療事業

連結売上高



中国における培地・バッグの売上高



平成23年3月期 実績

- ・ 中国でのがん免疫細胞療法向け培地・バッグの売上が増加（前期比+0.7億円）
- ・ がん免疫細胞療法の技術支援サービスの売上増（前期比+0.8億円）

中期経営計画について

平成26年3月期までの業績目標 および各事業における施策

第9回定時株主総会

平成23年6月24日・9

TaKaRa

タカラバイオグループ連結業績目標

(単位：百万円)

	平成24年3月期予算	平成25年3月期計画	平成26年3月期計画
売上高	19,800	21,200	22,700
営業利益	1,100	1,200	1,300
経常利益	1,300	1,350	1,400
当期純利益	680	780	830
研究開発費	3,072	3,498	4,117

セグメント別営業利益

	平成24年3月期予算	平成25年3月期計画	平成26年3月期計画
遺伝子工学研究	4,230	4,562	4,910
遺伝子医療	▲1,614	▲1,755	▲2,006
医食品バイオ	27	32	54
共通	▲1,543	▲1,638	▲1,658

第9回定時株主総会

平成23年6月24日・10

TaKaRa

セグメント別 売上目標

(単位：百万円)

	平成24年 3月期予算	平成25年 3月期計画	平成26年 3月期計画
研究用試薬	11,934	12,762	13,504
理化学機器	2,582	2,582	2,590
受託	1,796	1,896	1,996
その他	341	390	390
遺伝子工学研究	16,655	17,632	18,482
遺伝子医療	648	971	1,533
健康食品	595	650	717
キノコ	1,901	1,946	1,968
医食品バイオ	2,496	2,596	2,685
売上高 合計	19,800	21,200	22,700

○研究用試薬は、海外売上の拡大等により毎年約6%伸ばす。

○遺伝子医療は、新規事業立ち上げによる売上増を目指す。

○健康食品は、エビデンスデータを強化しつつ、B to B事業を伸ばす。

○キノコは、平成24年3月期に生産量の拡大により前期比+2億円とし、平成25年3月期以降はほぼ横ばいを見込む。

※遺伝子工学研究セグメントにおいて品目のくくり直しを行い、「その他」から「理化学機器」へ562百万円、「研究用試薬」へ8百万円移動させています。

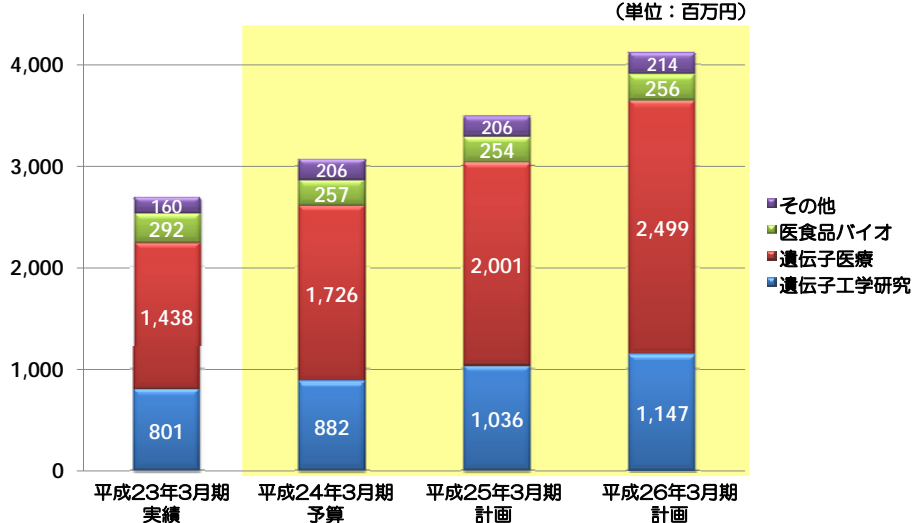
第9回定時株主総会

平成23年6月24日・11

TaKaRa

研究開発費（連結）

(単位：百万円)



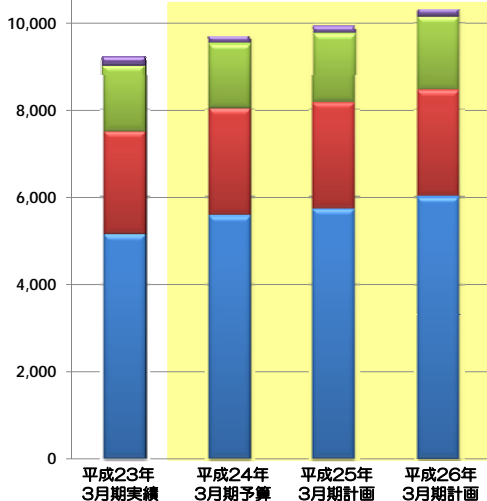
第9回定時株主総会

平成23年6月24日・12

TaKaRa

遺伝子工学研究事業の施策（１）：日本

タカラバイオの外部売上高 (単位：百万円)



1 遺伝子工学から細胞生物学へ

2 研究支援から産業支援へ

3 基礎研究支援から先端研究支援へ

- ・リアルタイムPCR関連製品
- ・高速シーケンス関連製品・受託サービス
- ・Applied Field (分子診断、動物感染症診断、食品分析、環境分析、ヒトゲノム定量等)
- ・マッハライ・ナーゲル社製品等、当社グループの製品と補完的な導入品

- その他
- 受託
- 理化学機器
- 研究用試薬



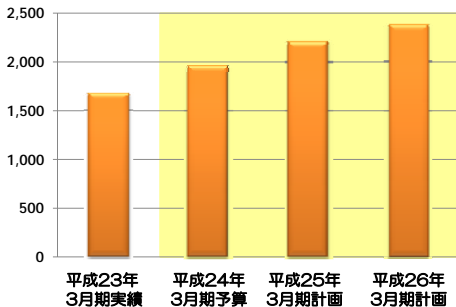
第9回定時株主総会

平成23年6月24日・13

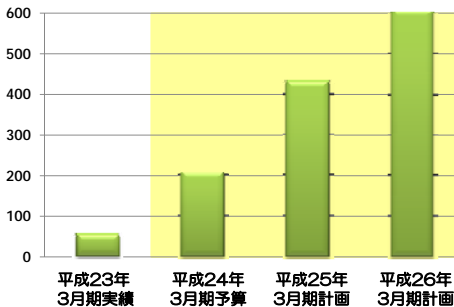
TakaRa

遺伝子工学研究事業の施策（２）：中国・インド

中国での売上高 (単位：百万円)



インドでの売上高 (単位：百万円)



- 中国において、毎年15%程度の売上高の伸びを継続
- PCR、リアルタイムPCR、クローニング、遺伝子機能解析製品の拡販

- タカラバイオ-DSSインド(株)を平成23年5月3日設立 (出資比率：当社グループ51%、DSS社グループ49%)
- インドにおける、タカラバイオ・クロンテック製品の製造販売を行う。

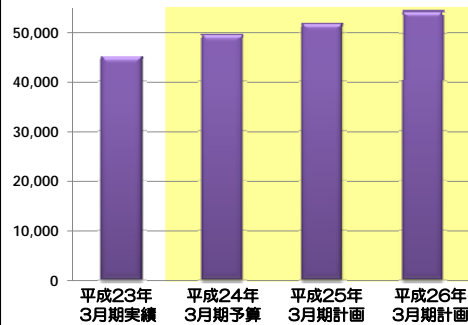
第9回定時株主総会

平成23年6月24日・14

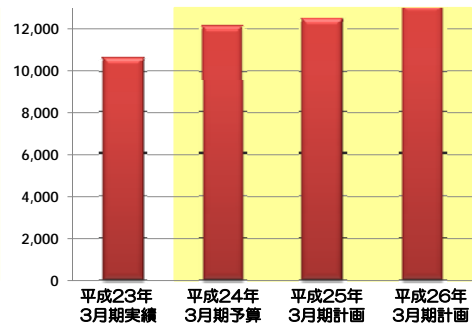
TakaRa

遺伝子工学研究事業の施策（3）：米国・欧州

クロンテック社の売上高（単位：千米ドル）



タカラバイオ・クロンテック社の売上高（単位：千ユーロ）



- 大型新製品である高速シーケンサー用試薬、タンパク質間相互作用解析用試薬等の販促。
- Advanced Cell Biology分野の新技术・新製品の開発を推進。
- e-コマースの導入、販売体制強化。

- タカラバイオ・クロンテック製品の代理店網の再編。
- 主要市場であるイギリスとドイツにおける直販体制の強化
- Webサイトをクロンテック社と統合

第9回定時株主総会

平成23年6月24日・15

TakaRa

医食品バイオ事業の施策（1）：健康食品事業

医食品バイオ事業の営業利益（単位：百万円）



1 平成24年3月期の営業黒字化

2 機能性食品素材のヒト試験によるエビデンス強化

3 B to B市場での売上拡大

- ・ ガゴメ昆布フコイダン：免疫活性化作用、インフルエンザ予防作用など
- ・ アガロオリゴ糖：関節炎予防作用、美容作用（シワ予防など）
- ・ 明日葉カルコン：メタボリックシンドローム改善作用
- ・ トゲドコロ/ヤムスゲニン：脂肪燃焼作用や運動能力の向上作用
- ・ ボタンボウフウ：血流改善作用、排尿改善作用
- ・ きのこテルペン：抗腫瘍作用



第9回定時株主総会

平成23年6月24日・16

TakaRa

医食品バイオ事業の施策（2）：キノコ事業

- 4 キノコの生産技術向上によるコストダウン
- 5 キノコ栽培技術・ノウハウのライセンス事業の拡大
- 6 高付加価値キノコの新規栽培法の確立

		平成23年3月期 実績	平成24年3期 予算
ハタケシメジ	売上高	672百万円	942百万円
	生産量	約1,190トン	約1,420トン
ホンシメジ	売上高	259百万円	337百万円
	生産量	約132トン	約149トン
フナシメジ (きのこセンター金武)	売上高	136百万円	136百万円
	生産量	約260トン	約260トン



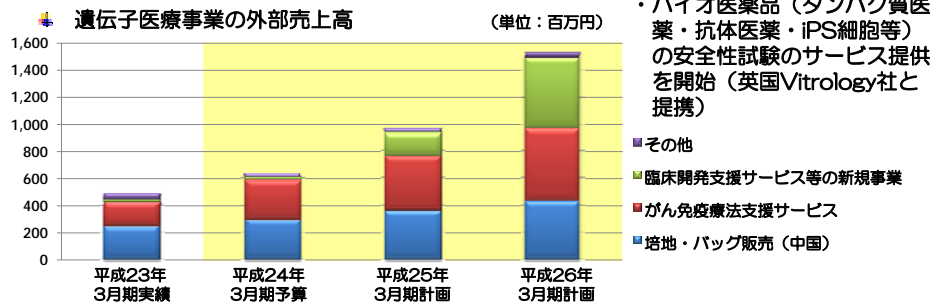
第9回定時株主総会

平成23年6月24日・17

TakaRa

遺伝子医療事業の施策（1）：収益事業の拡大

- 1 がん免疫細胞療法支援サービス事業の拡大 → ・提携先クリニックの増加（百万遍クリニック、ただだ診療所、藍野病院）
- 2 中国での細胞培養用培地・バッグの売上拡大 → ・中国でのがん免疫細胞療法の需要の増加
- 3 バイオ医薬品の臨床開発支援事業の拡大 → ・遺伝子治療用ベクター等の製造受託の拡大
・バイオ医薬品（タンパク質医薬・抗体医薬・iPS細胞等）の安全性試験のサービス提供を開始（英国Vitrology社と提携）



第9回定時株主総会

平成23年6月24日・18

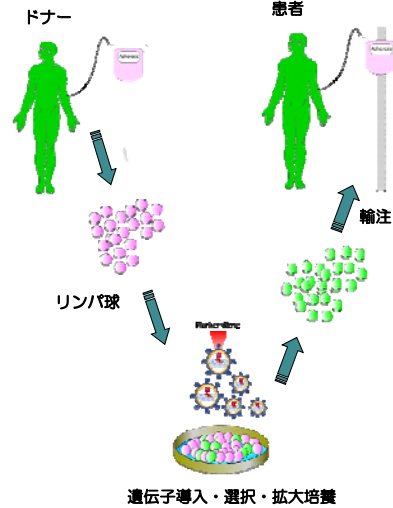
TakaRa

遺伝子医療事業の施策（2）HSV-TKプロジェクト

HSV-TK遺伝子治療

目標：平成29年度の商業化

- ①ドナーリンパ球輸注療法（再発白血病）
国立がん研究センターで第I相臨床試験を実施中
 - ・被験者登録促進のため、再発前に細胞調製できるよう、治験実施計画を変更
- ②ハプロAdd-back（造血器悪性腫瘍）
国立がん研究センターで臨床研究実施中
 - ・平成23年2月に2例目の遺伝子導入細胞を投与
 - ・伊国モルメド社が、平成24年後半に欧州でMarketing Authorization Applicationを行う計画と発表

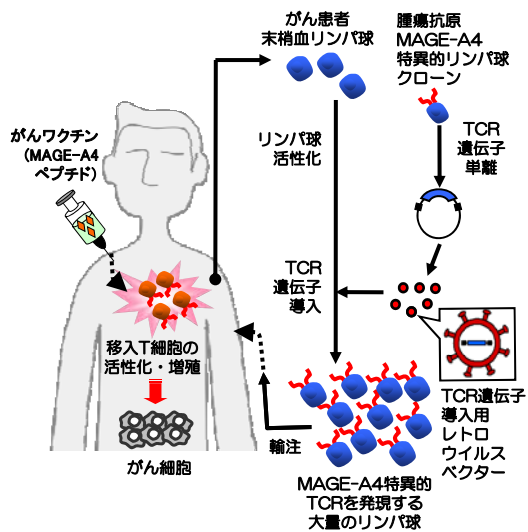


遺伝子医療事業の施策（3）TCRプロジェクト

TCR遺伝子治療

目標：治験を平成25年度に開始

- ①三重大学医学部と共同で臨床研究（食道がん）を実施中
 - ・平成23年4月に2例目の投与を実施。
- ②次世代ベクターを用いた臨床研究の開始に向けた準備作業を実施中
 - ・臨床研究を平成24年度に開始予定



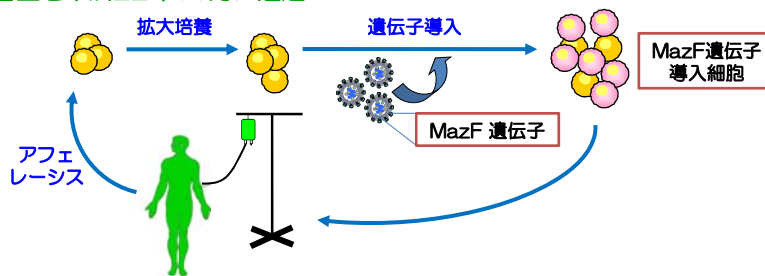
遺伝子医療事業の施策（４）MazFプロジェクト

MazF遺伝子治療

目標：米国での臨床試験を平成23年度に開始

ペンシルベニア大学等と共同で、米国臨床試験（HIV）開始に向けた非臨床試験などを実施中

- ・米国国立衛生研究所（NIH）の組換えDNA諮問委員会によるプロトコルの審査を平成22年11月に通過



第9回定時株主総会

平成23年6月24日・21

Takara

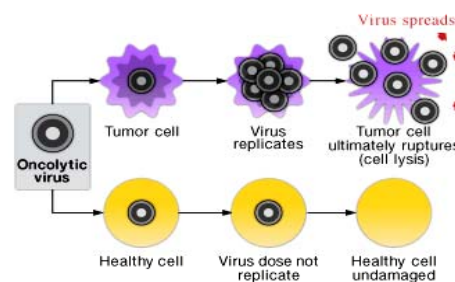
遺伝子医療事業の施策（５）HF10プロジェクト

腫瘍溶解性ウイルスHF10

目標：平成30年度の商業化

ピッツバーグ大学等で第I相臨床試験を実施中

- ・平成23年1月に5例目にHF10投与
- ・頭頸部がんに加え、メラノーマ、乳がん等の固形がんを追加するため、プロトコルを変更
- ・平成24年度に第I相臨床試験を終了予定



腫瘍溶解性ウイルスによるがん治療

第9回定時株主総会

平成23年6月24日・22

Takara

遺伝子医療事業の施策（6）細胞医療プロジェクト

レトロネクチン誘導 Tリンパ球（RIT）療法

- ①京都市立医科大学
臨床研究（肝細胞がん）平成22年7月に開始
- ②三重大学医学部など
臨床研究実施中（食道・卵巣がんなど）

→引き続き、レトロネクチン誘導Tリンパ球療法のエビデンスの蓄積のための臨床研究を推進

NK細胞療法

- 平成23年度の臨床研究開始
京都市立医科大学
・臨床研究を実施するための基礎データを取得中



遺伝子医療事業の臨床開発スケジュール

年度	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年
HSV-TK 遺伝子治療	国内 第I相臨床試験（DLI）実施中（平成23年度終了予定）						平成29年度	
	臨床研究（ハプロadd-back）実施中（平成24年度終了予定）						商業化	
HF10		米国 第I相試験実施中（平成24年度終了予定）						平成30年度
								商業化
MazF 遺伝子治療		平成23年度	米国にて第I相臨床試験を開始					
TCR 遺伝子治療		臨床研究実施中（平成24年度終了予定）						
			平成24年度	臨床研究（次世代ベクター）を開始				

※実施中のものを実線の矢印で表記

配当政策について

- ・株主の皆様への利益還元については重要な経営課題と認識しており、いずれは剰余金の配当を行いたいと考えています。
- ・業績の向上を図りつつ、がんとエイズの臨床開発パイプラインを拡充し、並行して4つの治験を進めるべく積極的に研究開発費を投下していく計画です。
- ・臨床開発プロジェクトを進展させ、その結果としての企業価値の向上により、株主の皆様の期待にお応えしていきたいと考えています。
- ・当分の間は、内部留保の充実およびさらなる飛躍のための成長事業への投資を優先させていただきたく、皆様のご理解を賜りたく存じます。